

大地から学ぶ越路の

# おいたち



H30.5.20 春の野外観察会 「弥彦山とその周辺の地形・地質」  
上：弥彦山からの眺望 集合写真：だいの湯 (写真：佐野迪則氏)

## 【主な内容】

平成30年度春の野外観察会報告「弥彦山とその周辺の地形・地質」

平成30年度総会記念講演会案内

総会資料

- ・平成29年度活動報告・平成30年度活動計画案
- ・平成29年度会計決算報告・平成30年度予算案

大地の会設立25周年記念事業

## 弥彦山とその周辺の地形・地質

平成 30 年 3 月 17 日に大河津分水改修工事の起工式が行われました。この機会に越後平野の成り立ちと、生活との関わりについて考えてもらえるようコースを設定しました。当日は前日の雨も上がり見晴らしの効く絶好の観察会日和でした。

### 観察場所

- 1.大河津分水改修工事現場対岸
- 2.立岩
- 3.新砂浜・砂丘
- 4.獅子ヶ鼻
- 5.弥彦山中腹見晴台
- 6.弥彦山山頂展望台
- 7.だいろの湯
- 8.矢作丘陵
- 9.信濃川大河津資料館

### 観察地点と内容

#### 1.大河津分水改修工事現場対岸

大河津分水路は、信濃川中上流部の洪水を日本海にバイパスして、越後平野を洪水氾濫の危険から守るための人工河川で、1922 年に通水しました。しかし戦後最大規模（1981 年 8 月）の洪水が流下した場合、新潟市・燕市ばかりでなく上流の長岡市でも水位上昇により氾濫が想定されています。そこで分水路の拡幅工事が必要とされ、今年度から工事が始まりました。

事業内容は山地部の掘削（川幅を約 100m 拡幅，床固改築など），事業費約 1.200 億円，事業期間は 2032 年までです。

#### 寺泊層について

日本海が広がり、フォッサ・マグナを通して太平洋とつながった時代です。約 1000 万年前頃です。寺泊層は東山頂部付近や半蔵金に分布するほか、今日の観察地の寺泊と間瀬間の海岸沿いに分布します。

平野や越路原では地下 4000m 付近に分布します。

岩相はおもに黒色泥岩層です。酸素が少ない深海底で堆積したため、有機物が多く石油を生んだ地層で、クジラの化石が産出するのが特徴です。



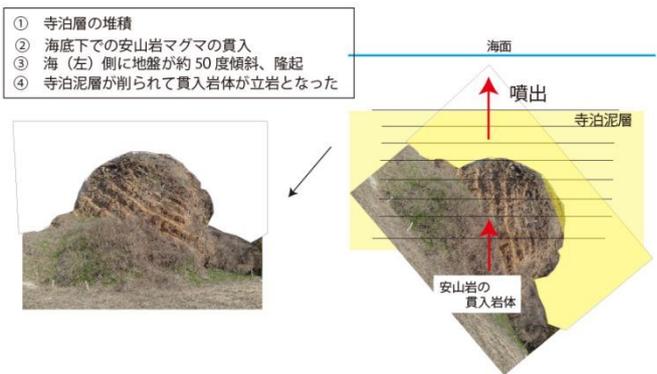
#### 2.立岩

寺泊層の堆積した時代は、黒っぽいアンザン岩・ゲンブ岩マグマや白っぽいリュウモン岩マグマが貫入し、さらに噴出した海底火山活動が比較的活発な時代です。

ここ（立岩）ではゲンブ岩質火山岩、アンザン岩質火山岩が観察され、海底下で固まったもので、貫入岩と言います。柱状節理らしいものも見られます。

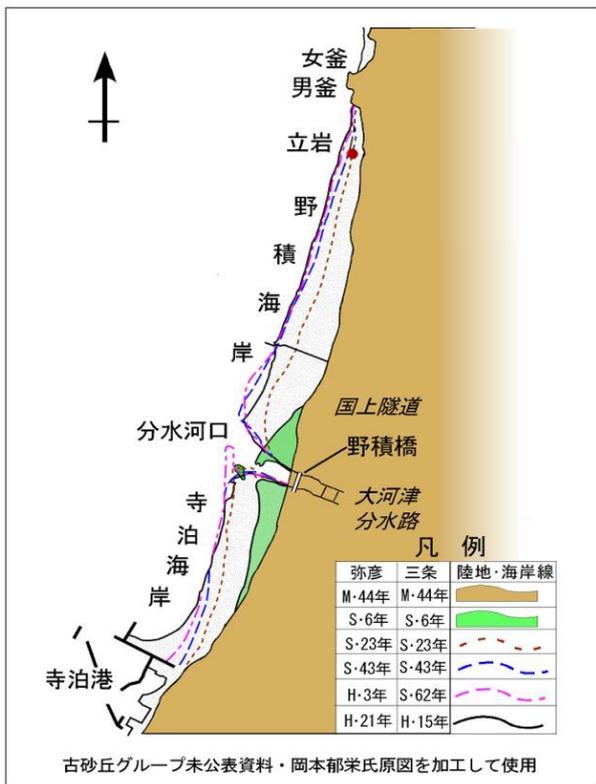
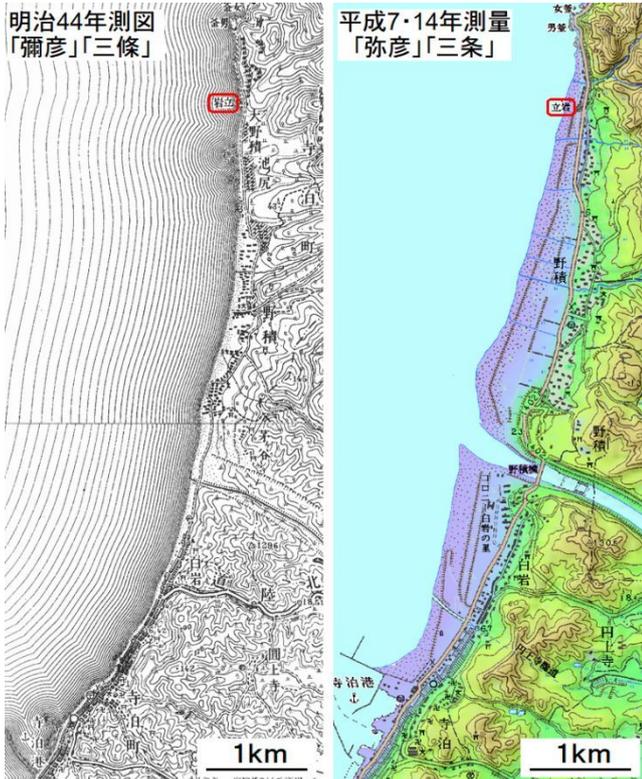
岩石の色が黒っぽいのはガラス質が少なく、不透明な鉄など金属が多く含まれているためです。黒緑色の小さな四角い輝石の粒（鉱物）が見られます。

立岩のでき方



### 3.新砂浜・砂丘

下図で赤枠が立岩。明治のころは海中にあった。現在私たちが立っている砂浜は無かった。大河津分水河口の左右に広がる砂浜は、洪時に河口から吐き出された土砂が海の波の作用で再堆積したもので、三角州に相当する。分水通水（1922年）後、1970年ころまでに砂浜が最大700mも前進・拡大したが、その後は拡大が止まっている。



### 4.獅子ヶ鼻

寺泊層堆積期に海底火山活動により形成。ここ（獅子ヶ鼻）ではリュウモン岩（流紋岩）の貫入岩体が観察されます。ゲンブ岩に比べ粘りがあり、ゆっくり流動し海底地下で固まったものです。名前の通り流れ模様（流理構造）が見られます。リュウモン岩が白っぽいのはガラス質が多く不透明な鉄など金属がほとんど含まれていないためです。透明なセキエイの粒（鉱物）が見られます。



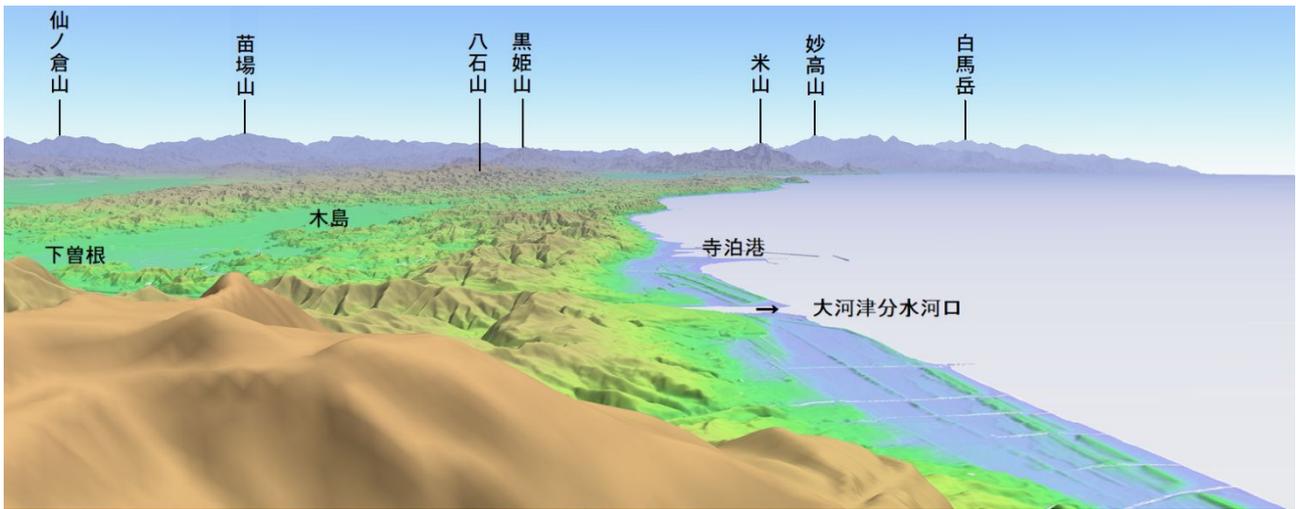
獅子ヶ鼻の流紋岩



火成岩の産状

### 5.見晴台……標高450mから南南西を展望する

1. 分水河口の両岸に広がる砂浜は 3.で説明した通り。
2. 寺泊の背後（西側，左手）の丘陵は寺泊層の背斜構造（寺泊背斜）とほぼ一致している。寺泊の南方（奥の方）では寺泊背斜は右方へ（海の側へ）カーブし、海中に没する。寺泊以南では砂浜の発達がわるく、この丘陵が急崖で日本海に接する場所が多い。
3. 寺泊背後の丘陵から左手側は、島崎川沿いの低地帯（図では木島～下曾根。越後線が通る）。さらに左奥の丘陵は、長岡でいう「西山」で、小木の城背斜（北東端は与板背斜）とほぼ一致している



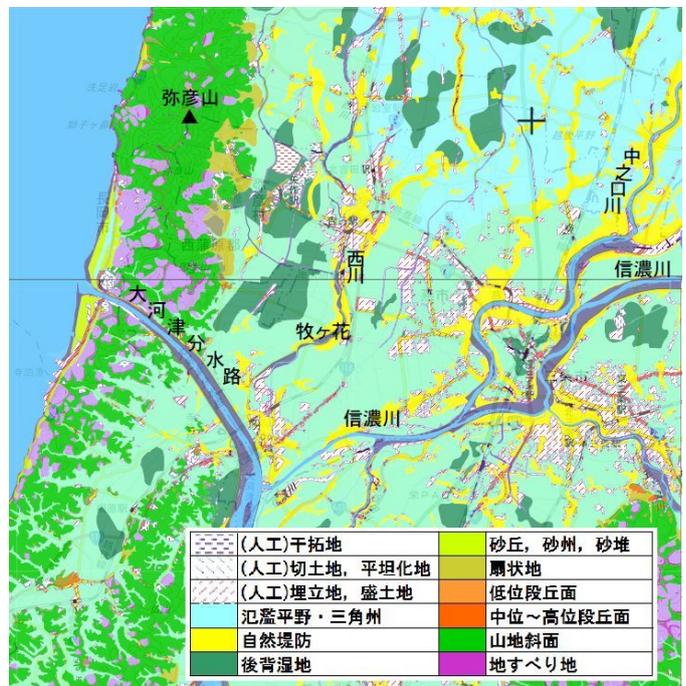
弥彦山頂のすぐ西方、標高 450mに見晴台から南南西を望む(水平距離 150kmまで、高さ 1.5 倍)

## 6.展望台……標高 560mから蒲原平野・新津丘陵・県境の山々を望む

景観の最も奥、新発田—小出構造線より東側の急峻な山々、その手前のなだらかな丘陵（下田丘陵，新津丘陵）の対比に注目する。

平野部で、集落が曲がりくねった長い帯状に分布している自然堤防と後背湿地を観察する。

この後に訪れる 8.矢作丘陵，牧ヶ花の位置を確認する。



HP「ヤマノポリ 山登り」より転載（地名を加筆）

## 7.だいろの湯……弥彦山塊東縁に列をなす温泉群

1. 北から，岩室温泉（霊雁の湯），上ノ郷温泉，だいろの湯，弥彦神社温泉，弥彦観音寺温泉，やひこ桜井郷温泉，さくらの湯，てまりの湯と温泉が列をなしている（一部は現在営業せず）。
2. 岩室温泉は 1713 年発見。1960 年代より数度ボーリング掘削。4 号源泉は深度 1,300m，泉温 46 ，湧出量 1,140ℓ/分（動力）。含硫黄ナトリウム・カリウム塩化物泉。（以上 山崎興輔氏資料による）
3. 弥彦観音寺温泉は 1084 年発見。含硫黄ナトリウ

ム塩化物泉。東北地方太平洋沖地震（2011 年）で枯渇。

4. 「だいろの湯」については次の資料がある。

	深度	泉温	pH	湧出量	泉質
1号源泉	1,209m	55.2	8.9	162ℓ/分	含硫黄ナトリウム塩化物泉
2号源泉	300m	25.8	8.9	838ℓ/分	含硫黄ナトリウム塩化物泉
3号源泉	1,000m	45.7	9.0	1,140ℓ/分	含硫黄ナトリウム・カルシウム塩化物泉

5. 温泉を熱源で分類すると、火山の地下のマグマを熱源とする火山性温泉と、火山とは無関係の非火山性温泉に分けられる。

非火山性温泉はさらに、地下深くなるほど温度が高くなる地下増温率(地温勾配)にしたがって高温となったいわゆる深層熱水と、熱源不明のものに分けられる。



非火山性温泉の熱源としては、地殻変動に伴う摩擦熱、地殻に含まれる物質の化学反応熱、近くに含まれる放射性物質の崩壊熱、が考えられるという(松田忠徳『温泉の科学』(技術評論社, 2009)による)。

6. 温泉を成因で分類すると「循環水」(説), 「マグマ水(処女水)」(説), 「熱水溶液」(説)などがある。循環水説とは、地表水(雨水, 雪解け水)が地下深くに浸透して地熱で温められ、さまざまな物質を溶かしこんで温泉となり、ふたたび地表(または地下浅所)にもどる(循環する)と考えるもの。
7. 一般に地下増温率は日本で100mあたり2~4とされている。
8. 岩室~弥彦の温泉群は、弥彦山塊の東縁をはしる長岡平野西縁断層帯とどのように関係しているのだろうか。熱源は不明にしても、地下深所には、温泉(地下水)を大量に貯留し、さらに流動させやすい破砕質または多孔質の岩盤が広く分布していることは間違いなからう。

## 8. 矢作丘陵

越後平野西縁には、弥彦山(634m)・角田山(487.1m)を双壁とする丘陵が約16kmにわたって連なっています。この日本海に面した屏風のような存在は、地域の人たちにとって冬の季節風の「風除け」の効果となっています。そしてその前面には、御殿山、矢作丘陵などの「孤立丘陵」と呼ばれる、小規模な丘が分布しています。

小さな丘ができる背景

この小さな矢作丘陵は、弥彦山が海底から隆起していく過程で、谷間から丘の体裁をなしていくこと



になります。

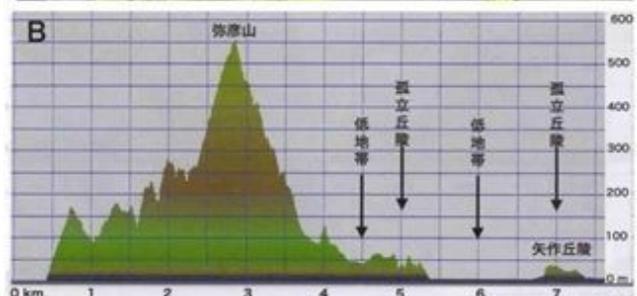
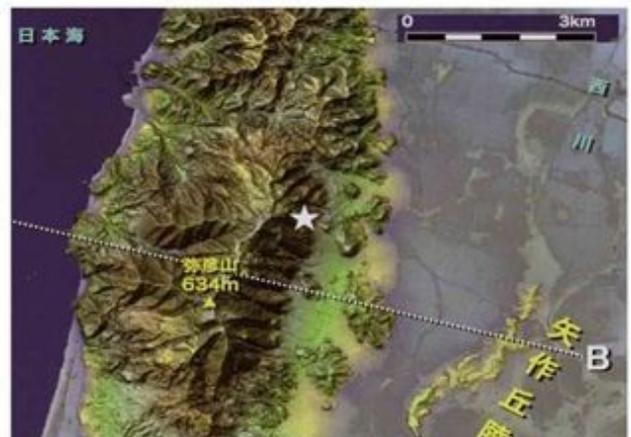
弥彦山は、主として新第三紀中新世の火山岩類(安山岩類や凝灰岩・火山性砕屑岩など)から成り立っています。それは寺泊層(約1300から800万年前)が深海底で堆積したころの火山活動の産物です。

山体はそれを構成している地層がドーム状に分布していること、断層が多く発達していること、岩脈が地層に対してほぼ直角に入り込んでいることなどが特徴です。これらは弥彦山が地下深部から火成活動とともに隆起したことを物語っています。

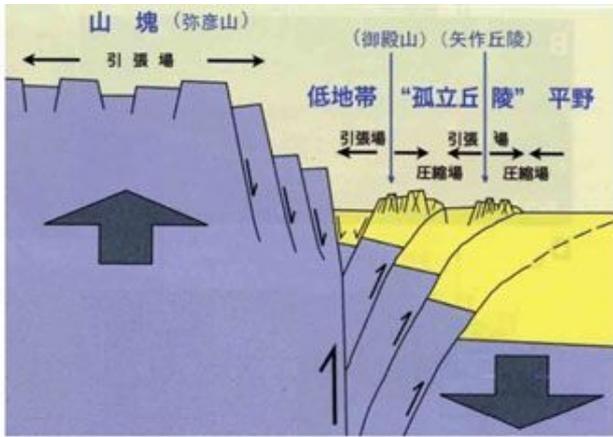
### 弥彦山塊の隆起と矢作丘陵・低地帯

矢作丘陵をなす後期更新世(10数万~1万年前)の矢作層はそれ以前の地層にアバット不整合(ぶつかるといえるような接し方)をなし、また高角逆断層が多く観察されています。

弥彦山塊の隆起が進行する一方で、縁辺部では隆起運動とともにブロック化しますそれによって、相



対的に沈降した凹地に堆積した矢作層は隆起運動に曝されることとなります。その結果微高地（孤立丘陵という）が形成されたと考えられています。平野側では、圧力が低いために低角な逆断層が発達します。



も優しい施設として平成 14 年（2002）4 月 18 日リニューアルオープンしました。（同館パンフレットより。）

- 1 階…… 信濃川と越後平野のなりたちや人々のくらしと風土を通して大河津分水の歴史と役割を紹介します。
- 2 階…… 大河津分水建設の歴史とそれに関わる人々を紹介します。
- 3 階…… 信濃川や大河津分水に関する書籍などを閲覧することができます。
- 4 階…… 雄大な信濃川や大河津分水の風景を楽しめる全天候型の展望室です。



## 9. 信濃川大河津資料館



同館パンフレットより転載

信濃川大河津資料館は、明治 9 年（1878）に開始された信濃川河身改修工事から 100 年を記念し、昭和 53 年（1978）10 月 28 日に開館しました。より多くの人々に「大河津分水」を紹介し、親しんでいた資料館をめざし、独特な外観の旧庁舎の建物をそのままにし、エレベーターも設置して、誰にで

### 終わりに

弥彦山山頂からは田植えの終わった美しい田園風景が広がっていました。この越後平野が成立する過程で弥彦山等火山による高地があったことで、川からの土砂が堆積されたこと、また、平野部に住む人々が河川の氾濫に苦労しながらも、農業を営んできたこと。

河川災害を防ぎながら、水資源を活用するために大河津分水を始めとした設備が作られてきた歴史を感じることができる一日でした。

# 社会を支える石油・天然ガスと、身近な地層・岩石

私たちの生活を根底から支える石油・天然ガスは、いつなくなるのでしょうか？新潟県が日本最大の原油・天然ガス生産県なのはなぜ？ガス田の地下の様子はどんなになっているの？

油田・ガス田を構成する地層・岩石は、少し離れた地域の野山に出かけると目にすることができます。それはどのようなものでしょう？油田・ガス田の地質にまつわる身近な疑問にお答えします。



上：ガス田(片貝)  
左：石油貯留岩(砂岩)  
右：石油根源岩

講師：理学博士 栗田 裕司(くりた ひろし)氏

・新潟大学 准教授 ・石油技術協会 理事 ・新潟市石油の世界館友の会 会長  
1982年 石油資源開発株式会社入社 長岡鉱業所及び技術研究所勤務、  
2001年 新潟大学 助教授(理学部地質科学科)  
2007年 同 准教授  
研究分野：古生物学，層位学，堆積地質学、石油地質学

【と き】平成30年6月29日(金)

総会 午後 7:00 ~ 7:30 記念講演会 午後 7:30 ~ 9:00

【ところ】越路総合福祉センター3階(右図参照)  
長岡市来迎寺3697

【申し込み】Tel・FaxまたはMailでお申し込み下さい  
電話：0258-92-5910(越路支所地域振興課教育支援係)  
FAX：0258-92-3333( )  
メール：koshiji@daichinokai.sakura.ne.jp(大地の会)  
資料準備の都合上，6月20日(水)までをお願いします。  
なお当日飛び入り参加もできます。



会場案内図

主催：大地の会・長岡市越路公民館

大地の会平成29年度活動報告

1 総会・記念講演会

日時/場所：平成29年6月30日(金)19:00～21:00 越路総合福祉センター

講演：「新潟地域の地震・津波災害を考える」

講師：新潟大学災害・復興科学研究所准教授，新潟大学研究推進機構研究教授 ト部厚志氏

2 会報「おいたち」の発行

89号(6月20日発行) 春の野外観察会報告，総会資料 長生橋80周年事業他

90号(9月1日発行) 総会記念講演会報告，平成29年度地学講座案内，子供向け岩石加工講座報告 他

91号(12月20日発行) 地学講座報告 第1回 第2回、市民活動フェスタ・越路文化祭出展報告 他

92号(3月20日発行) 地学講座報告，野外観察会案内，平成30年度活動カレンダー 他

3 地学講座の開催

統一テーマ 「ふるさとの地質名所をめぐる」 - 基礎から学ぶ身近な大地 -

・第1回 平成29年9月26日(火)

講演「日本海誕生からの旅立ち」

講師 大地の会顧問 渡辺秀男氏

・第2回 平成29年10月1日(日)

野外観察会「ふるさとの地質名所めぐり」

講師 山崎興輔氏 大地の会顧問団

・第3回 平成29年10月10日(火)

講演「地表面凸凹のミステリー」

講師 渡辺文雄氏

・第4回 平成29年10月20日(金)

講演「日本を代表する地殻変動」

講師 飯川健勝氏

4 諸活動

春巡検 平成29年5月28日(日)「破間川ぞいの地形・地質とダム」 参加者57名

大地の会発足25周年記念事業

(仮)「中越地域の地学ガイドブック」の編集・発刊(発刊は平成30年度を予定)

子ども向け岩石加工講座(成出管理棟)平成28年8月5日(土)小学生10名 保護者・役員10名

成出露頭管理・情報発信(草刈り 春6月3日 秋9月9日)

幸齢者教室講師派遣(6月～10月 3回)

ながおか市民活動フェスタ'17への参加(平成29年9月9日(土))：立体地図展・「飛び出す地形」販売

スノーフェスティバルへの参加 2月10日(土)

他団体との交流・参加

糸魚川フォッサマグナミュージアム友の会 東山油田(史跡・産業遺産)保存会

新津石油の世界館友の会 下仁田自然学校 中越防災安全推進機構 信濃川大河津資料館友の会 他

その他

5 役員会等

定例役員会 毎月1回(第2火曜日)

大地の会設立25周年記念事業実行委員会 毎月1回 程度

6 現役員

会長：小川幸雄

副会長：永井千恵子，大谷晴男

幹事長：佐藤 隆

会計：松井直子

監事：平澤 聡，内山 隆

(名前は順不同)

## 総会資料

### 大地の会平成30年度活動計画(案)

#### 1 総会・記念講演会

日時/場所：平成30年6月29日(金)19:00～21:00 越路総合福祉センター

講演：「新潟県中越地域の油田・ガス田の生成構造やその地質学的背景」

講師：新潟大学 理学部 教授 栗田裕司 氏

#### 2 会報「おいたち」の発行

年 4回 の発行予定 ( 6月 9月 12月 3月 )

#### 3 地学講座の開催

統一テーマ：「ふるさとの地形・地質名所をめぐるPART -基礎から学ぶ身近な大地-」

日時は以下を予定

第1回 平成30年9月28日(金)開講式・講演

第2回 平成30年10月14日(日)野外観察会

第3回 平成30年10月19日(金)講演

第4回 平成30年10月26日(金)講演・閉講式

#### 4 諸活動

春巡検 平成30年 5月20日(日) 「弥彦山とその周辺の地形地質」 参加者 43名

子ども向け岩石加工講座 平成28年8月4日(土)(成出管理棟)

成出露頭管理・情報発信(草刈り) 6月3日,9月9日予定)

幸齢者教室講師(渡辺(秀)顧問,飯川健勝顧問,)

スノーフェスティバル参加

他団体との交流・参加

糸魚川フォッサマグナミュージアム友の会 東山油田(史跡・産業遺産)保存会

新津石油の世界館友の会 下仁田自然学校 中越防災安全推進機構 信濃川大河津資料館友の会 他

その他

#### 5 役員会等

定例役員会 毎月1回(第2火曜日)

大地の会設立25周年記念事業実行委員会 毎月1回 程度

#### 6 その他

○ 25周年記念事業 「地学ガイドブックの発刊」

総会資料

平成29年度 大地の会決算報告

(1) 収入の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	増減	備考
会費	410,000	408,500	-1,500	個人 98,500円 法人 310,000円
受講費	150,000	75,600	-74,400	春巡検、秋地学講座
受託料	162,000	154,000	-8,000	地学講座、成出露頭管理、幸齢者教室
繰入金	200,000	0	-200,000	
寄付金	10,000	0	-10,000	
販売収入	3,000	0	-3,000	地学関係図書
雑収入	30	761	731	預金利子
繰越金	91,470	91,470	0	
合計	1,026,500	730,331	-296,169	

(2) 支出の部

項目	予算額	決算額	増減	備考
会議費	50,000	38,618	-11,382	総会、記念講演会、会議会場費等
活動費	861,500	418,963	-442,537	春巡検、秋地学講座、会報、子供地学講座、スノーフェスタ、成出露頭管理、幸齢者教室、その他
消耗品費	25,000	4,547	-20,453	封筒、用紙他
通信費	65,000	56,472	-8,528	会報・案内等送料
雑費	5,000	0	-5,000	
予備費	20,000	0	-20,000	
合計	1,026,500	518,600	-507,900	

(収入) 730,331円 - (支出) 518,600円 = (次年度繰越) 211,731円

平成29年度 特別会計決算報告

(1) 収入の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	増減	備考
マップ・体験集等販売	3,000	3,000	0	マップ、その他
飛び出す地形販売	20,000	9,500	-10,500	
雑収入	16	9	-7	預金利子
繰越金	625,184	625,184	0	
合計	648,200	637,693	-10,507	

(2) 支出の部

項目	予算額	決算額	増減	備考
一般会計繰出金	200,000	0	-200,000	
新規活動準備金・備品購入費等	433,000	0	-433,000	
通信費	5,000	0	-5,000	本送料
雑費	10,200	0	-10,200	販売経費等
合計	648,200	0	-648,200	

(収入) 637,693円 - (支出) 0円 = (次年度繰越) 637,693円

監査報告 平成29年度における収支決算に関する証拠書類と諸帳簿について監査したところ、その内容が適正であったことを認めます。

平成30年 5月 23 日

監事

内山 隆

平澤

聡

総会資料

平成30年度 大地の会予算(案)

(1) 収入の部

(単位:円)

項目	予算額	前年度予算額	増減	備考
会費	410,000	410,000	0	個人 100,000円 法人 310,000円
受講費	100,000	150,000	-50,000	春巡検、秋地学講座
受託料	174,000	162,000	12,000	地学講座、成出露頭管理、幸齢者教室
補助金	645,000	0	645,000	地学ガイドブック発刊事業補助金
繰入金	500,000	200,000	300,000	
寄付金	10,000	10,000	0	
販売収入	3,000	3,000	0	地学関係図書
雑収入	69	30	39	預金利子
繰越金	211,731	91,470	120,261	
合計	2,053,800	1,026,500	1,027,300	

(2) 支出の部

項目	予算額	前年度予算額	増減	備考
会議費	50,000	50,000	0	総会、記念講演会、会議会場費
活動費	1,904,000	861,500	1,042,500	春巡検、秋地学講座、会報、子ども地学講座、立体写真展、スノーフェスタ、その他
消耗品費	25,000	25,000	0	封筒、用紙他
通信費	60,000	65,000	-5,000	会報・案内等送料
雑費	4,800	5,000	-200	
予備費	10,000	20,000	-10,000	
合計	2,053,800	1,026,500	1,027,300	

平成30年度 特別会計予算(案)

(1) 収入の部

(単位:円)

項目	予算額	前年度予算額	増減	備考
マップ・体験集等販売	3,000	3,000	0	マップ、その他
飛び出す地形販売	10,000	20,000	-10,000	
雑収入	7	16	-9	預金利子
繰越金	637,693	625,184	12,509	
合計	650,700	648,200	2,500	

(2) 支出の部

項目	予算額	前年度予算額	増減	備考
一般会計繰出金	500,000	200,000	300,000	
新規活動準備金・備品購入費等	136,000	433,000	-297,000	
通信費	5,000	5,000	0	
雑費	9,700	10,200	-500	販売経費等
合計	650,700	648,200	2,500	

## 大地の会 25 周年記念事業「地学ガイドブックの発刊」

昨年より準備を進めてまいりました「地学ガイドブック」を発刊の現在の状況を報告します。

会員の皆様に発表以来準備を進め5月までに8回の実行委員会を開催し、概要がようやく決まってきました。以下まだ編集途中ですが、其の一部をお知らせいたします。

大地の会で発刊した「飛び出す地形」や一般社団法人北陸地域づくり協会から発刊の「大地の姿」の内容をもとに、長岡地域を中心とする中越地域の地形・地質を解説するものを目指しております。

会員や中学生以上を対象として、いつでもどこでも利用できる分り易い内容とし、地域の教育機関等に配布し、地域教育に役立てもらえること、私たちが観察するときに持ち歩くことができ、どこでも開いて観察の手助けとなるような冊子を考えています。

取り上げる個所については、当会拠点の中越地域を中心に候補地を選びました。

現在の候補地は大きな項目として・地層がかたる大地・変化する大地・揺れ動く大地・大地と人間、等を据えました。

小さな項としては、今まで観察でたずねた個所を中心に取り上げました、地形の凸凹・隆起する山・沈降する大地・蛇行する川・褶曲や地層の不思議など数多く取り上げるように考え進めています。

普段見慣れている大地の形成過程を知り、今後の起きる可能性のある災害を考え、あちこちで起きている自然災害を考えるとときの、心構えの一視点を提供できるものになればと進めています。

地学ガイドブックは持ち歩くことを考え、大きさをA-5版(14.8cm×21cm)の80ページ程度で、出来上がるように各項目のページ数を決定しようとしています。

地学学習の大地の会としての目標を掲げつつ、コラム欄をとこところに配して、あまりかたくならないようにしたいと決定しております。

会員の皆様には、このコラム欄への投稿やこんなところのこれが知りたいなど、多くの声を寄せていただきたく紙面からお願いをいたします。

平成31年度中の発刊を目指しておりますが、ページ数が増えたりなどこれから予定通りにゆくか心配ですが、期限に間に合うように作業を進めてまいりたいと考えています。

本ガイドブックの編集については、大地の会の顧問の方々より大きな力を寄せていただいております。会員の皆様にもぜひ一緒にこのガイドブックの編集に参加していただける方を募集しております、幹事へのお声がけをお待ちしております。

大地の会では、「長岡市市民活動推進事業補助金」に補助金申請をしておりました。結果6月1日付で採択の通知が参りました。これで本事業がより前進できると思えます。

会員各位にはこれからも、大地の会の事業への参加をお願いして報告とします。

編集委員会

### 29 浪海川の流れ(十日町市浦田～長岡市下山)

浪海川は、県内で信濃川・阿賀野川について第3位の長さをほこる一級河川です。浪海川をどこまでさかのぼると、長野との県境にある三方岳付近に行きつきます。ここが源流というわけです。実はこの付近には保倉川の源流もあります。二つの川は三方岳の北面を北へ流下したあと、保倉川は西へ流れて日本海へ注ぎ、浪海川は北北西へ流れて信濃川に合流します。川の流れはどのように決まるのでしょうか。



図1 浪海川と保倉川(「川だけ地区」を利用)

浪海川は数十万年前、浪海が褶曲しながら陸化するときに誕生した浪海川の源流地帯は、数百万年以上前に堆積した黒色泥岩砂岩互層などが分布しています。これは数百万年前は深い海だったことを意味します。

地学ガイドブック内容見本(検討中)

#### 賛助会員紹介

国際石油開発帝石株式会社  
朝日酒造株式会社 有限会社越路地計  
株式会社エコロジーサイエンス  
大原技術株式会社 有限会社広川測量社  
高橋調査設計株式会社  
オムニ技研株式会社  
エヌシーイー株式会社

順不同

大地の会会報 おいたち 93 号

2018. 6.20 発行

大地の会事務局

〒949-5411 長岡市来迎寺甲 1381 永井千恵子

e-mail : [koshiji@daichinokai.sakura.ne.jp](mailto:koshiji@daichinokai.sakura.ne.jp)

URL : <http://daichinokai.sakura.ne.jp/>

問合せ先

長岡市越路支所地域振興課教育支援係

担当 江口珠恵 TEL 0258(92)5910